

学校教育目標	「夢と志」をもち、主体的に生きる児童の育成	経営理念	ミッション: 自分も相手も大切に、自ら考えて行動することができる児童の育成 ビジョン: 信頼される学校づくり
--------	-----------------------	------	---

評価計画							自己評価				改善方策	学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)			
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価		結果と課題の分析	改善方策	評価	コメント
							9月	1月							
確かな学力	1	主体的に学ぶ楽しさが味わえる授業づくりをすることで、確かな学力をつける。	☆知識・技能の習得	○ICT機器を効果的に活用した授業を行う。 ○スキルタイムを継続して実施し、児童一人一人に応じた指導を行う。	・NRT、標準学力調査標準スコア（国語・算数）	児童50	国語49.1 算数48.1		97.0%	3	○国語科、算数科共に若干目標値を下回った。ICT機器の効果的な活用は全学年で行っているものの、スキルタイムでの個別指導がまだ十分ではないことが原因だと考える。	○スキルタイムに加え、学力向上の時間をさらに設定し、その時間には複数体制での指導が可能になるように計画的に実施することで、より多くの児童のつまづきに寄り添った指導を行う。	B	既にタブレットの効果的な活用改善に取り組まれていて、対応が早い。「児童のつまづきに寄り添った指導」と「児童の落ち着いた授業態度の構築」について重点的に進めてほしい。	
			○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る授業改善	○授業のユニバーサルデザイン化を図り、個別最適な学びと協働的な学びを生かした授業改善を行う。 ○ユネスコスクールとして、SDGsの達成を目指し、地域創生プロジェクトで体験活動を実施するとともに、教育活動全体を通じて表現したくなるような場面設定を行い、表現する機会を設ける。	・授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 ・自分の地域の良さを表現している。 ・児童が表現したくなるような指導の工夫をしている。	児童85% 児童85% 教職員100%	児童82.8% 児童76.3% 教職員100%		95.7%	3	○誰一人取り残すことなく授業に参加させることを目指して、授業のユニバーサルデザイン化について校内研修を自分、授業改善に取り組んだ結果、「授業中、自分で考えて問題を解きます。」と答えた児童の割合が、82.8%だった。過年度から継続して取り組んでできた成果だと考える。 ○地域のよいことについては、76.3%で目標値を下回った。学習のゴールに表現する活動を設定しているため、児童は表現する活動をまだ行っていないと感じていると考える。 ○自分の地域の良さを表現していることについては、目標値を下回った。学習のゴールに表現する活動を設定しているため、児童は、表現する活動をまだ行っていないと考える。 ○教職員は、指導の工夫を100%実施したと捉えている。	○各学級によって、課題解決の取り組み姿勢の結果に差があるので、実態に応じて取り組んでいく。 ○地域創生プロジェクトを中核にした学習の中で、地域の良さを表現する機会を設け、計画的に指導していく。	A	教職員2人体制授業や河内小と一緒の協働的な学びは、有効で、今後も続けていただきたい。授業のユニバーサルデザイン化は重要な視点であり、これからも校内研修を進め、充実を図ってほしい。地域の良さを学習することは大切なことであり、今後も継続して行うと同時に、児童から保護者へ地域の良さを発表できる機会をつくっていかれてほしいかがか。	
豊かな心	2	自己有用感や社会性を高め、豊かな心を育む。	☆東広島スタンダードの定着	○委員会活動や高学年による活動等において、挨拶レベルの向上のための取組を設定する。 ○全校朝会等で、挨拶等について称賛する。	・あいさつレベル4以上の児童	児童90% 教職員80%	児童79% 教職員72%		88.0%	2	○「自分はあいさつレベル4のあいさつをしている。」と答えた児童が、79%、教職員は、72%の割合で目標値を下回った。挨拶が機械的になっているなど意味を理解していない児童が多いことが原因だと考える。	○挨拶名人の表彰を行ったり、朝会や下校時に良い挨拶について話したりすることで、挨拶をする意味を伝えるようにする。	A	あいさつの意味を児童に理解させ、引き続き取り組んでほしい。達成感からの自己評価は、とても適切である。長期的な視点での取組をお願いしたい。	
			○自己有用感の向上	○各学級において、お互いを褒め合う場面を定期的に設定する。	・自分の頑張りを認められ、嬉しいと感じたことがある。 ・自分は人の役に立っている。	児童90% 児童90%	児童86% 児童62%		65.0%	1	○「自分の頑張りを認められ、嬉しいと感じたことがある。」「自分は人の役に立っている。」「の項目は両方目標値を下回った。委員会や係活動を当たり前と感じている児童が多く、それが人の役に立っていることだと自覚していないことが原因だと考える。	○委員会活動や係活動での行行動を価値付ける言葉掛けを行ったり、スキルタイム等を使って、友だち同士が褒め合う時間を設定したりする。	B	ほめほめタイムを設けることで、自分の価値を認める児童が増えることを期待する。教職員の研修を充実させると同時に、教職員同士の人間関係づくりに努めてほしい。	
健やかな体	3	基本的な生活習慣の定着や健康や安全について理解し、健やかな体をつくる。	☆学習姿勢の意識化	○姿勢を安定させることが健康の保持につながることを学習させ、授業の開始・終了時に意識させる。	・姿勢を安定させることが健康のために大切であることを知っている。 ・立腰を意識し、取り組んでいる。	児童80% 児童80%	児童71.5% 児童42.9%		89.4% 53.6%	1	○「姿勢を安定させることが健康のために大切であることを知っている。」と回答した児童は71.5%。「立腰を意識し、取り組んでいる」と回答した児童は42.9%の割合で目標値を下回った。特に、立腰を意識している児童が少ない。これは、腰を立てて座ることの良さが十分浸透していないことが原因だと考える。	○朝は1校時の開始時、その後、3校時の開始時、午後は5校時の開始時に1分間の立腰に取り組ませることでよい姿勢を意識化させる。月初めの朝会時に立腰の大切さを話し、意識の向上を図る。	B	腰骨を立てる大切さを繰り返し話すことで児童の意識も向上すると考える。評価1の判定は、適切である。学習姿勢を直すには、長い時間がかかると思われる。継続して地道な指導、メリハリをつけた指導を諦めないで行ってほしい。	
			○運動・外遊びの奨励	○委員会活動を中心に、運動や外遊び奨励の取組を企画・実行するとともに、環境整備を進める。	・運動や外遊びが好きである。	児童90% 児童89.5%		99.0%	3	○「運動や外遊びをすることが好き」と回答した児童の割合は89.5%であり、目標を少し下回った。行事などがいっぱいあったため、意識ができていないと考える。	○外遊びがしにくくなる冬場に向けて、委員会活動を中心に、運動や外遊び習慣の取り組みを企画・実行していく。	A	本来は、小学校時代は外遊びが好きな児童が多い年齢だと思うが、目標値に達しておらず残念に思う。学校として意図的に癖の特定を行っている。		
信頼される学校	4	教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図り、児童と向き合う時間を確保する。	○保護者や地域に開かれた学校の実現	○保護者対象アンケートを実施し、その都度、改善方策を検討するとともに、学校の様子を保護者や地域に発信する。	・学校は、学校の様子を分かりやすく伝えている。	保護者90%	95%		106%	4	○保護者評価は95%の割合で、目標値を達成した。学校だよりは月に1度、ホームページはおよそ3日に1回、学校での児童の様子を伝えており、機会あるごとに学校の取組を保護者や地域の方に発信し続けていることから評価が高かったと考える。	○引き続き、児童の様子を学校だよりやホームページ等で伝えていく。児童が頑張っており取り組んでいる活動や成長している様子を掲載していく。	B	今の時代、情報発信に難しさを感じている。受け取る側が興味ある情報・面白味がある情報のみを選び、学校情報・地域情報などは浸透できない感じを受ける。情報発信は、地道に継続していくことが重要であると考ええる。	
			○業務改善の推進	○児童と向き合うための教職員同士の対話を通して、アイデアを共有し、改善意識や同僚性を高める。 ○管理職への報告・連絡・相談を徹底し、スピード感をもって対応する。	・自分が掲げた目標に向かって仕事ができている。 ・児童と向き合う時間が確保できている。 ・児童と向き合う時間（授業準備等含む）が確保できている。	教職員90% 教職員85%	92% 67%		102% 78.8%	2	○「目標に向かって仕事ができている。」「は目標値を達成した。目標を掲げることが意識できるようになったと考える。」「○児童と向き合う時間が確保できている。」「は達成しなかった。分掌や提出物、保護者対応等、日々の業務に追われ、児童と向き合う時間が確保できていないことが原因だと考える。	○児童と向き合う時間が確保できるように、担当する分掌について同僚に相談し、早期に提案ができるようにしていく。また、保護者対応については管理職への報告・連絡・相談を実行して効率よく仕事が進められるようにしていく。	A	頑張っており取組を継続していれば保護者に伝わり、信頼度もさらに上がる。児童・保護者対応や、授業研究・校務分掌などの仕事量が多い中、大変だとは思いますが、職場の人間関係づくりがうまくいけば楽しく業務が遂行できると考える。引き続き頑張ってもらいたい。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
●4(目標を上回って達成) ≥ 105%
●95% > 2(目標をやや下回って達成) ≥ 70%
●105% > 3(目標どおりに達成) ≥ 95%
●70% > 1(目標をかなり下回って達成)

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
A...とても適切である
B...適切である
C...あまり適切でない
D...全く適切でない
(N...判定できない)